

地震発生

2週間程度の対策を示す

どう対処する…

「地域防災計画」第5編が完成

予想される東海地震対策として、市防災会議は昨年2月、「地域防災計画 東海地震対策編」をつくりましたが、このたび、その続編として、地震発生後の対策編である第5編を作成。

この計画は、地震発生後2週間程度の対策を示したものです。



昭和53年の宮城県沖地震



市民総ぐるみの 応急活動で

大震法（大規模地震対策特別措置法）に基づいた、「地域防災計画 東海地震対策編」は、平常時対策から警戒宣言時の応急対策までを、第1編から第4編で構成。

内容としては、市の活動を始め、防災関係機関、事業所、自主防災組織及び市民などが、予想される東海

地震に備えて、どのように対処するかの基本方針を示してあります。

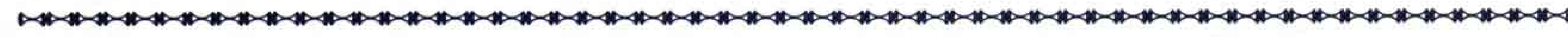
今回、作成されたのは第5編で、東海地震発生後の災害応急対策にあたるための、基本方針を示してあります。

その主な内容としては、人命の救助、災害の拡大防止、地域への救援を柱に、情報の収集伝達、緊急輸送、パニック防止等を掲げています。

これは、いわゆる自主防災組織を中心として、事業所、一般市民及び高校生まで、市民総ぐるみの災害応急活動を示したものです。

なお、この計画は、状況の変化に対応できるように、必要に応じ見直しをすることもできます。

この第5編が作成されたことにより、「地域防災計画 東海地震対策編」は、すべて完成されたこととなります。



が終る頃になってじたばたするのが常です。

そこで今年こそはじたばたしないようにさせたいと考え、今から何か適当な学習資料がないかと思っています。特に富士市のことについて調べられるような資料があったら教えてください。（岩松Tさん）



夏休みの宿題に資料を

（おたずねします）

毎年、夏休みの宿題を計画だっりやるように指導するのですが、休み

（おこたえします）

市広報広聴課に、市の人口の移り変わりや産業、公害、消防、交通の状況などいろいろな資料があります。

これらの統計資料をまとめた「富

士市の統計」を作成し、これは実費（1部250円）でおわけしています。

また毎年、夏休みに市役所10階の北側予備室で「夏休み学習資料の公開と研究相談」を行っています。

これには、学校の先生がアドバイザーとして出席し、相談に乗っています。今年も7月27日（月）から31日（金）まで、毎日午前9時から午後4時まで行います。

このうち先生が出席する日は、28日と29日の午前9時から午後3時までです。ご利用ください。

（広報広聴課）



情報の収集 被災者の救出

“第5編、は、第1章から第14章までで構成されていますが、そのうちの第1章、6章、7章、10章の主な点をあげてみます。

第1章は、防災関係機関の活動として――。

地震が発生した場合、市は災害対策本部を設置します。

市職員は、指定された場所に集合し、情報の収集及び伝達、被災者の救出にあたります。

災害対策本部が設置されると、必要に応じ、防災会議が開かれます。

第6章は、災害の拡大防止活動として――。

消防活動について、市民・自主防

災組織及び事業所は、可能な限り出火防止活動、初期消火活動を行い、お互いの協力によって、火災の拡大を防ぐ…。

津波や河川の出水が予想される場合、本部長及び市職員・水防団長及び団員は、区域の住民に対して、避難の呼びかけを行う。

市は、救出を必要とする負傷者に対して、職員を動員又は、関係機関に呼びかけ、救出活動を行うとしています。

さらに実践的 資料を作成

第7章は、市民の避難及び避難生活の基本を示した、避難活動。

避難の方法としては、火災の延焼拡大・津波・山崩れの危険が生じた場合、市民は、あらかじめ指定された安全な場所に避難する――としています。

第10章は、地域への救援活動として――。

日常生活を営むことが困難となった場合、被災者に対して緊急物資の確保・給水活動・燃料の確保など、市や自主防災組織が行う対策を示しています。また、医療救護活動・防疫活動についても――。

市は、この“対策編、を基本方針として、今後さらに、実際に十分な機能を果たせるよう、資料づくりを進めていきます。

人命の救助が第一



荒田島2丁目
自主防災会々長
小池龍男さん
(58歳)

地震が発生したら、まず人命の救助を第一に、それから飲料水を確保することじゃないかな。

食糧は、3日分位を確保しておけばいいのでは…。

避難するには、隣近所まとまっての方がいいと思う。それに、ケガをしないようにすること。

とにかく、日頃の訓練が大切だね。

自分の身は自分で



天間北一区
鈴木清さん
(68歳)

日頃の心構えができていれば、被害は最少限に食い止められるはず。

子どもの頃、東京で関東大震災を経験したので、ロープ・ヘルメット消火器などの7つ道具は、すぐに持ち出せるように置いてあるよ。

地震発生を予知することは、なかなかむずかしいことだと思う。自分の身は、自分で守ることが第一だね。

あの街



わが街



昭和46年に、
長野県から富士市に
来られた、緑ヶ丘の
上條啓子さん
(34歳)

――長野のどちらから…。

上條 信州松本からです。城下町で落ち着いたところですよ。城がすべての中心といった感じなんです。

――富士市に望むことは。

上條 富士市にも中心となる核がほしいですね。施設はたくさんあるようだけど、散在しているって感じ。

もっと人々のこころの中心になる、なつかしさが湧くような大公園を！ドカッと中心に緑を配置して、いろんな文化施設もあって、市民が気軽に集まれるようなところが…。

――大構想ですね。